

2011年3月期 決算説明会

2011年5月27日

本州化学工業株式会社
(証券コード:4115)

<目 次>

I.当社の特徴	3
II.2011年3月期 実績	7
III.2012年3月期 通期見通し	14
IV.08中計ローリング達成状況	21

I. 当社の特徴

【当社の特徴】

- ① 独自技術をベースにフェノール系誘導品に特化したファインケミカルカンパニー
- ② ・オンリーワン製品 ・高シェア製品が多い

③ コア製品の市場占有率(2010年度)

製 品	用 途	ポジション
トリメチルフェノール (TMP)	ビタミンE原料 (家畜飼料)	世界シェアNO.1 (50%)
BHT	酸化防止剤	国内シェアNO.1 (70%)
フォトレジスト材料分野 例)トリスフェノール	LCD用	アジアシェアNO.1
	半導体用	アジアシェアNO.1

③ コア製品の市場占有率(2010年度)

製 品	用 途	ポジション
ビフェノール (BP)	液晶ポリマー原料 (LCP)	世界シェア(45%)
ビスフェノールF (BPF)	高機能エポキシ原料	アジアシェアNO.1

II. 2011年3月期 実績

2011年3月期 連結業績

<単位:億円>

	2010年3月期 (前期)	2011年3月期 (当期)	対前期比
売上高	150.0	168.2	+18.2 (+12.1%)
営業利益	5.4	19.0	+13.6 (+250.2%)
経常利益	10.3	19.8	+9.5 (+92.5%)
当期純利益	4.9	9.8	+4.9 (+100.4%)

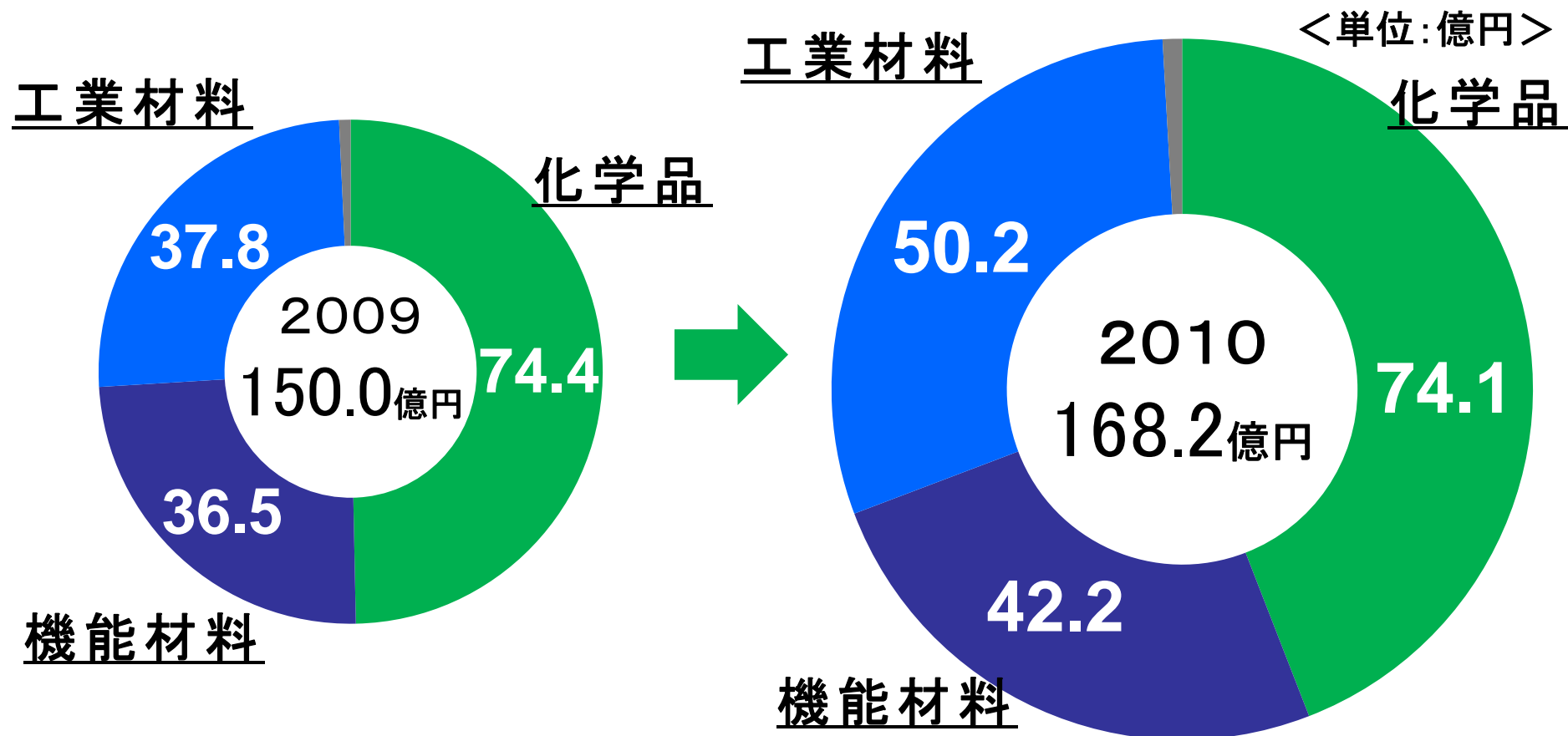
※前回公表数値（平成22年10月26日）との差異

売上高 0.1 / 営業利益 4.5 / 経常利益 4.8 / 当期純利益 2.0 (億円) ⇒ 増加
⇒ IT・自動車関連製品の需要が好調に推移したため、特殊ビスフェノール・
フォトレジスト材料の販売が好調であった。

主要な事業内容

事業部門	主要な製品・担当
化学品部門	クレゾール誘導品 (トリメチルフェノール、BHT等) ビフェノール ビスフェノールF
機能材料部門	フォトレジスト材料(トリスフェノール等) 特殊ビスフェノール類 開発品
工業材料部門	受託事業、(独)ハイビス社製品

セグメント別売上高(2009/2010年度)



【2009/2010】

化学品 ▲0.3億円 / 機能材料 +5.7億円 / 工業材料 +12.4億円 **増加**

2010年度 総括

リーマンショックの影響を完全に克服

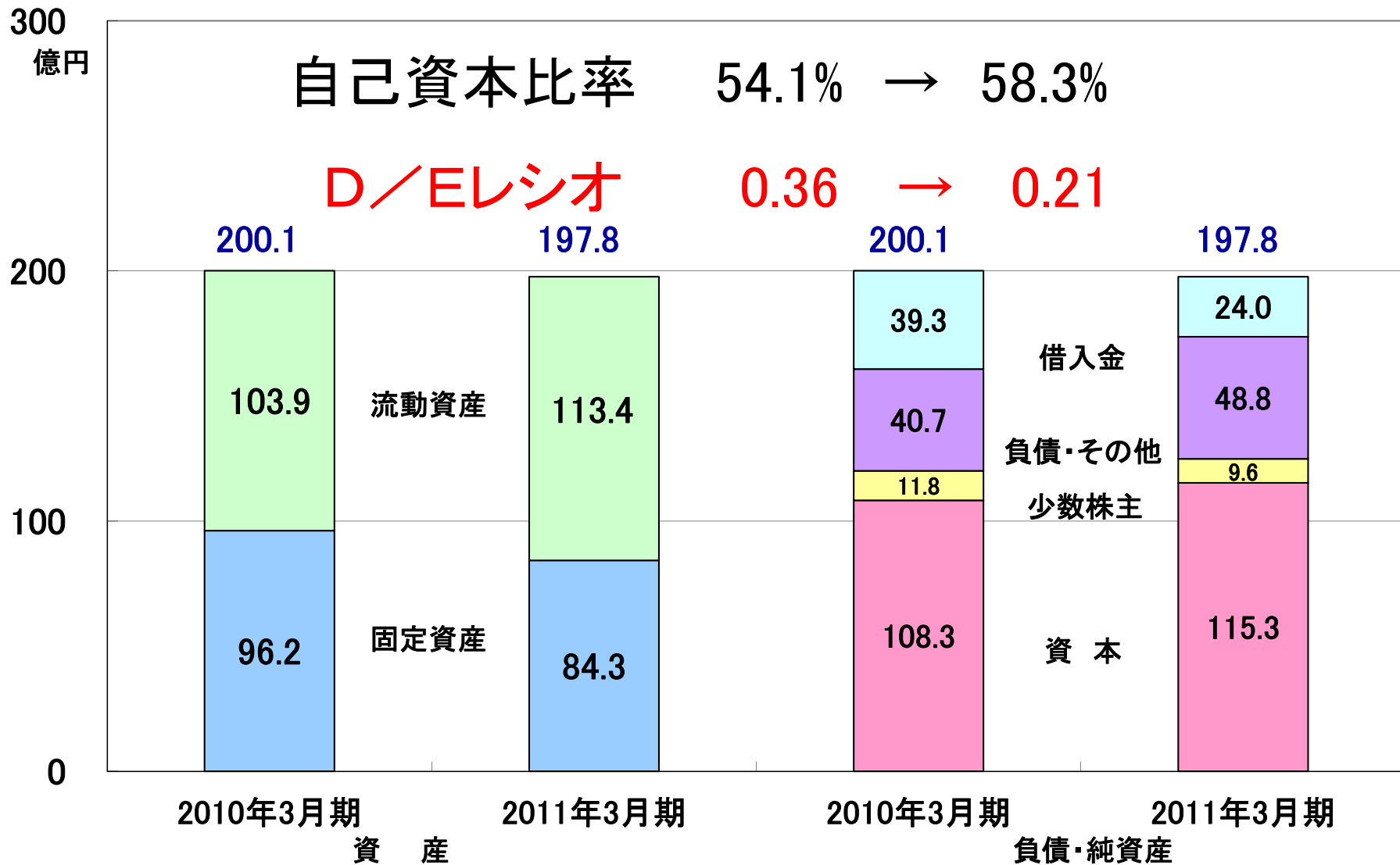
1. 連結経常利益で最高益を更新
(事業部門を再編し、市場のグローバル化に対応)
2. 和歌山工場のコスト競争力強化を推進
BEP*60プロジェクトの立ち上げ
(*ブレイク・イーブン・ポイント: 損益分岐点稼働率)

キャッシュフロー(連結)

<単位:億円>

	2010年3月期	2011年3月期	増減
営業活動	38.9	33.8	▲5.0
投資活動	▲2.9	▲5.0	▲2.0
(フリーキャッシュ・フロー)	(35.9)	(28.8)	(▲7.1)
財務活動	▲20.1	▲20.4	▲0.2
その他	▲0.1	▲0.7	▲0.6
現金預金増減	15.7	7.7	▲8.0
期末有利子負債	39.3	24.0	▲15.3

貸借対照表(連結)



III.2012年3月期 通期見通し

2012年3月期 事業概況

➤ 留意すべき事業環境

- 1.東日本大震災の影響
- 2.原燃料価格上昇・為替変動
- 3.グローバル化の進展・競合激化

➤ 対応方針

- 1.市場動向注視(適正在庫の維持)
- 2.主要製品の交易条件の確保
- 3-①コスト競争力の強化
 - ②海外事業強化・拡大
 - ③新製品開発の加速

2012年3月期 連結業績目標

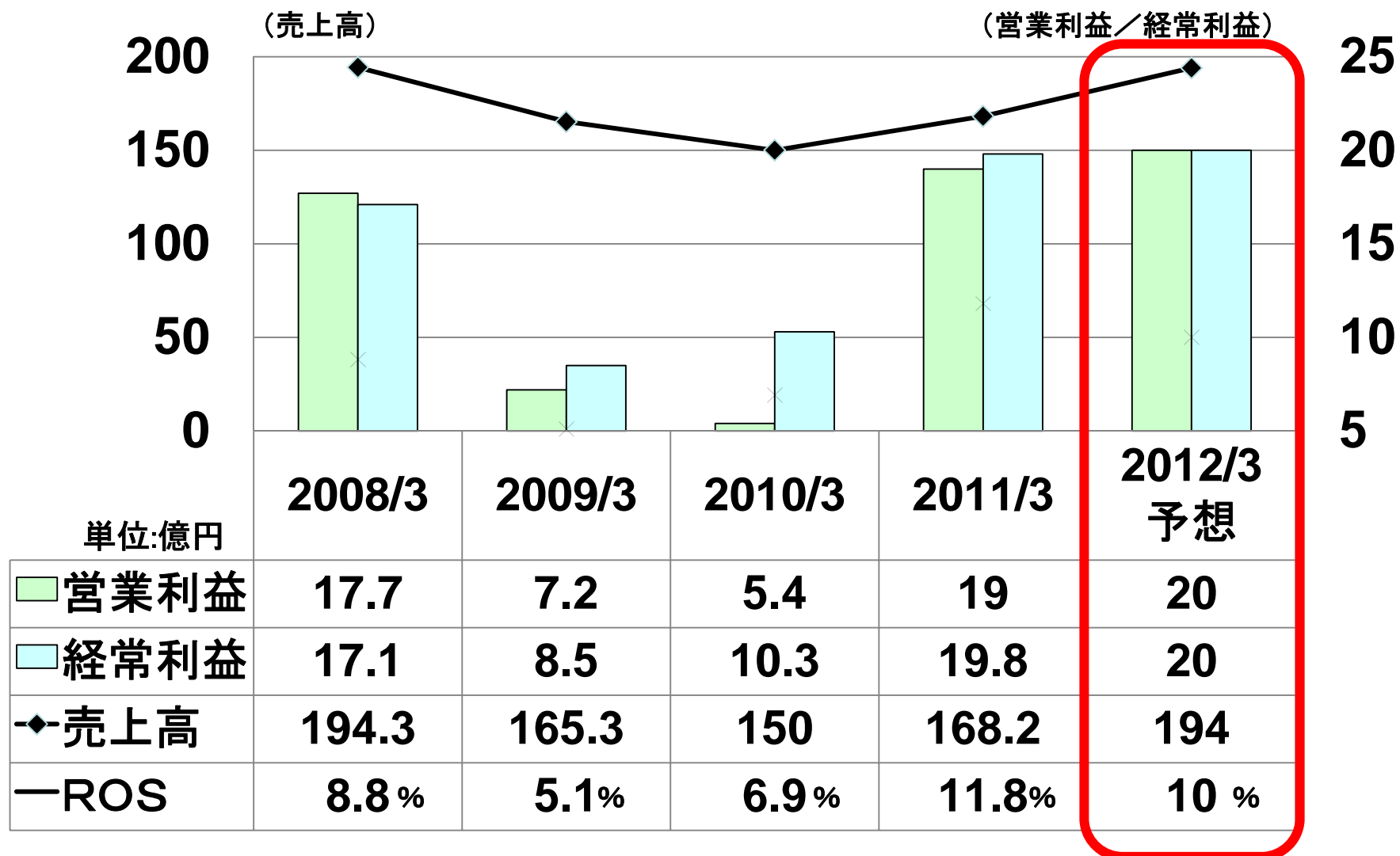
<単位:億円>

	2012年3月期	2011年3月期	対前年差
売上高	194.0	168.2	+25.8
営業利益	20.0	19.0	+1.0
経常利益	20.0	19.8	+0.2
当期純利益	10.0	9.8	+0.2

◎コストアップ要因-対前年同期比6億円(原料高を見込む)

◎原料上昇を拡販・合理化で吸収

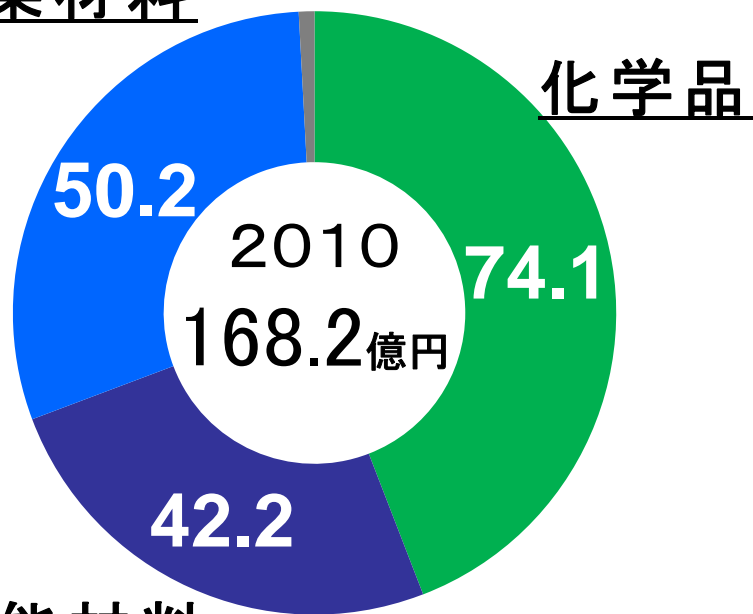
売上高／営業利益／経常利益推移(連結)



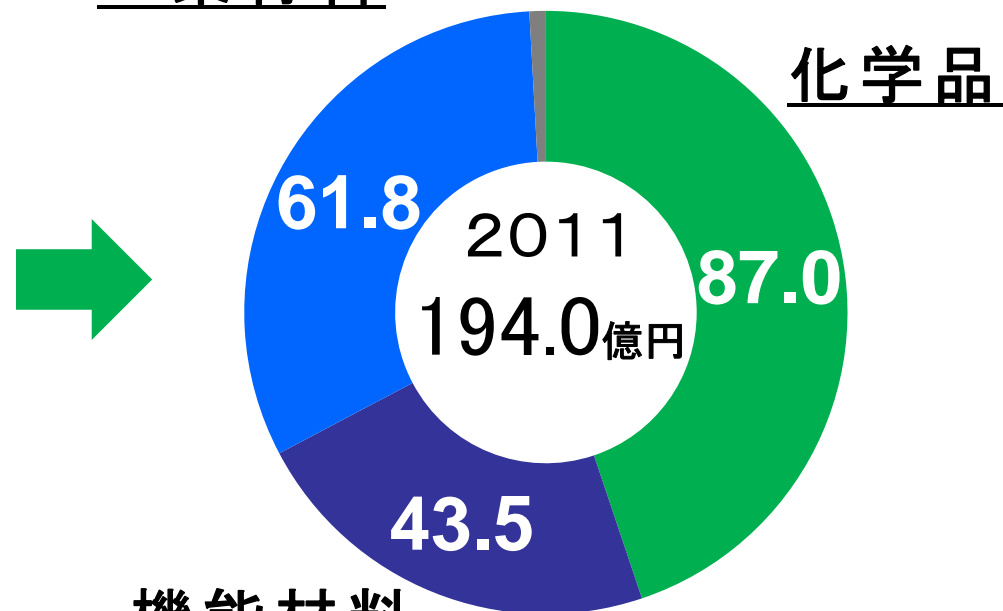
セグメント別売上高(2010/2011年度)

<単位:億円>

工業材料



工業材料



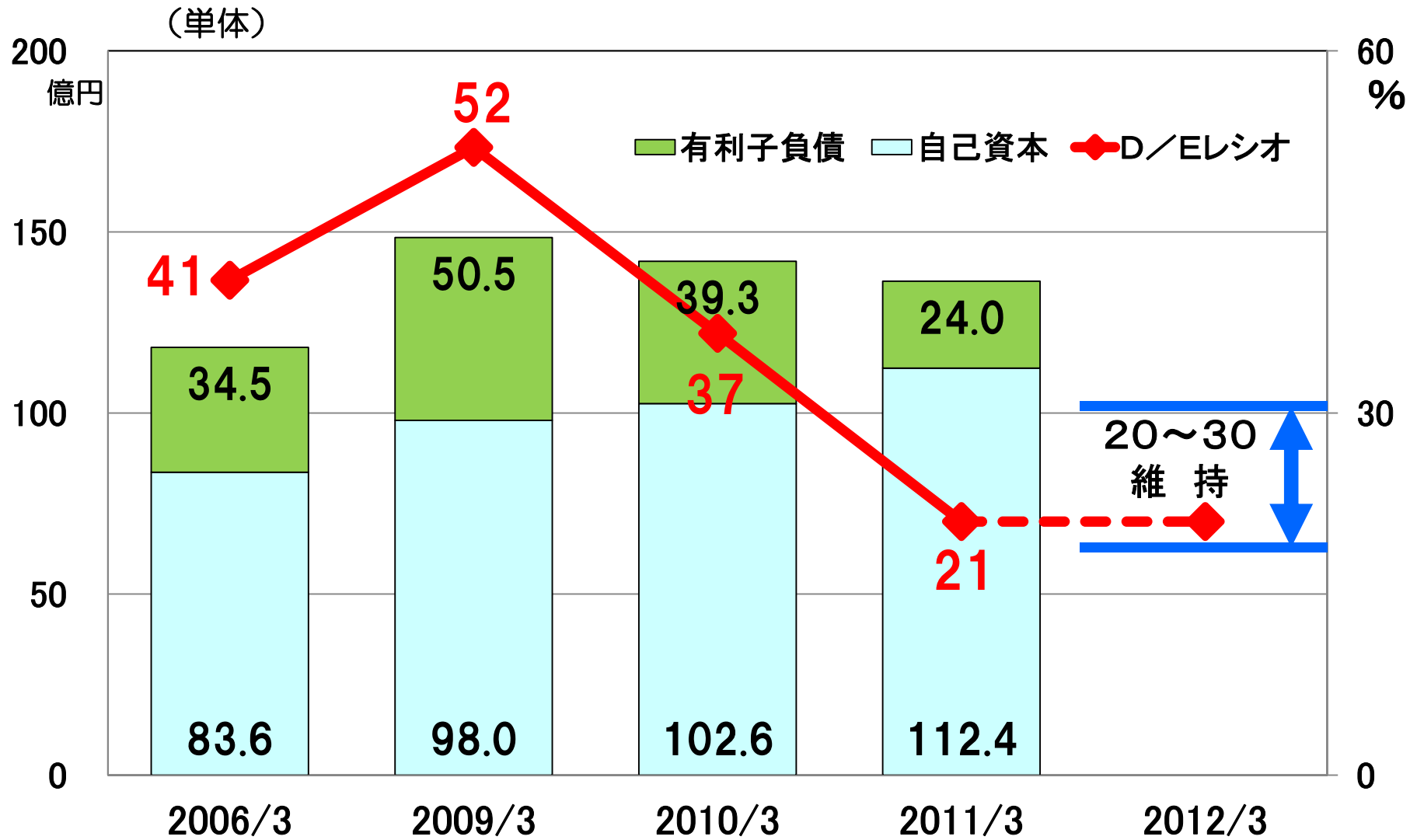
機能材料

機能材料

【2010/2011】

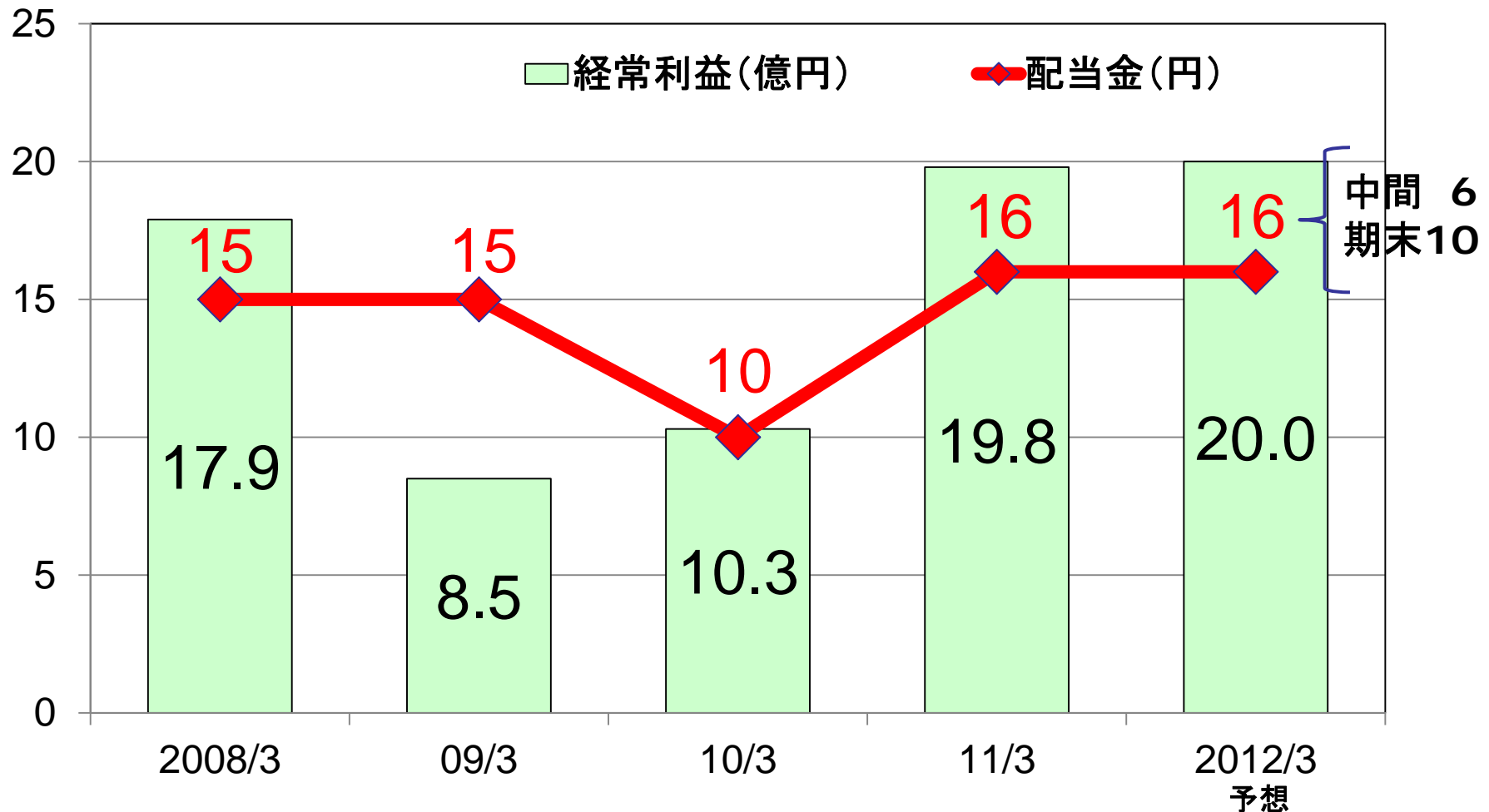
化学品 +12.8億円 / 機能材料 +1.3億円 / 工業材料 +11.4億円 **増 加**

健全な財務体質を堅持



配当実績と2012年3月期見込み

安定配当を継続的に実施



IV.08中計ローリング達成状況

リーマンショックを受けて基本戦略を転換

08中計:基本戦略

1. 既存コア事業の強化・拡大

- ①供給力確保のため、設備能力拡大へ積極投資

2. 次期コア候補の育成・強化

- ①BPF
- ②H-BHT
- ③感光性ポリイミド

3. 新規コア事業の創出

- ①ポリエステルイミド材料
- ②高機能エポキシ樹脂原料

08ローリング:基本戦略

1. コスト競争力強化

- ①変動費改善・固定費削減
 - ②インフラ整備
- (能力拡大のための投資は見送り)

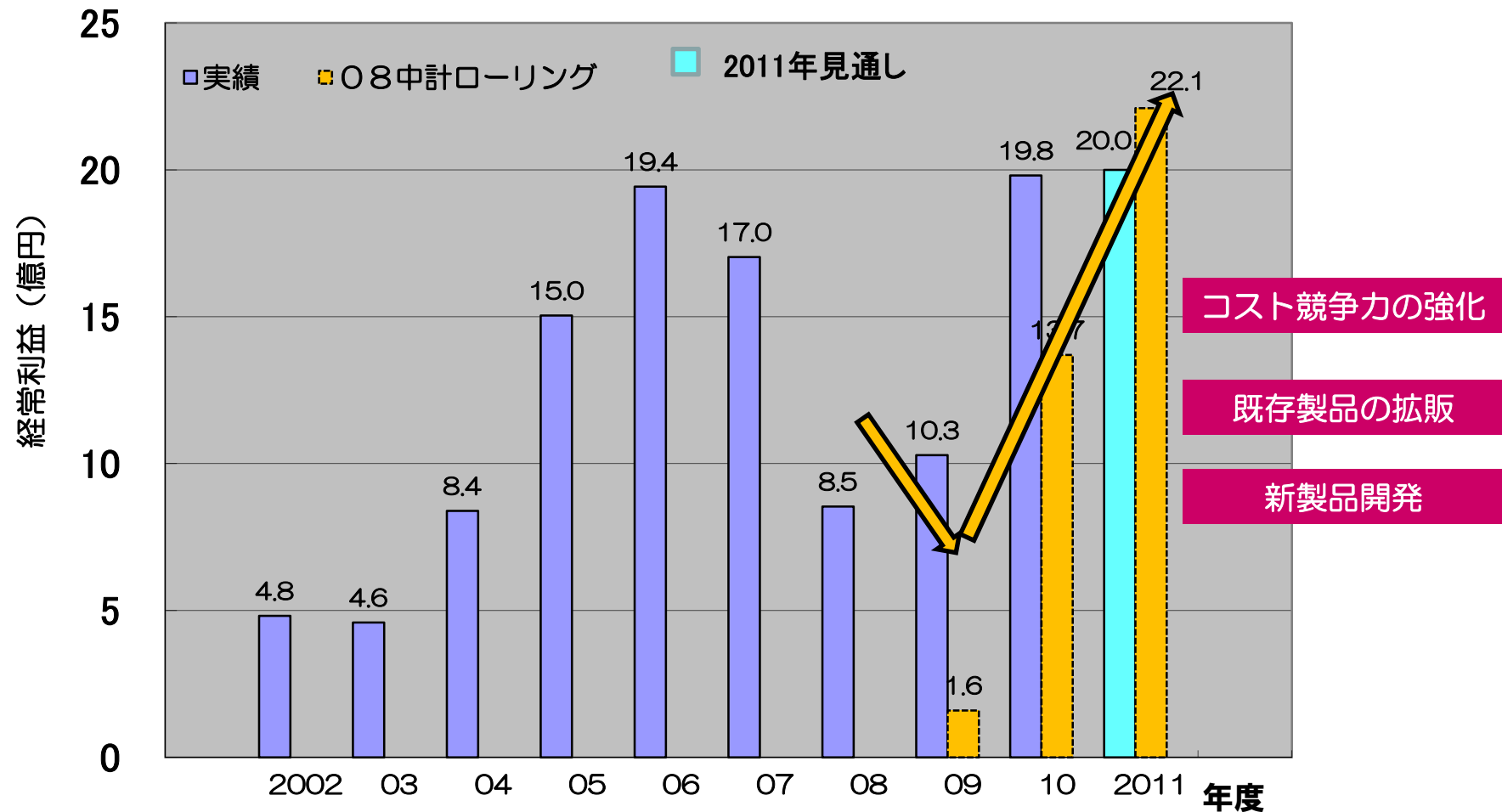
2. 拡販(含む、アジア需要の獲得)

3. 新製品開発の加速

コスト競争力強化、拡販および新製品開発の加速によりROS 10%以上を目指す

08中計ローリングの達成状況

08中計ローリングの目標は前年度で達成した



本州化学の持続的発展を目指して

<2012年度からの新規中期計画を策定する>

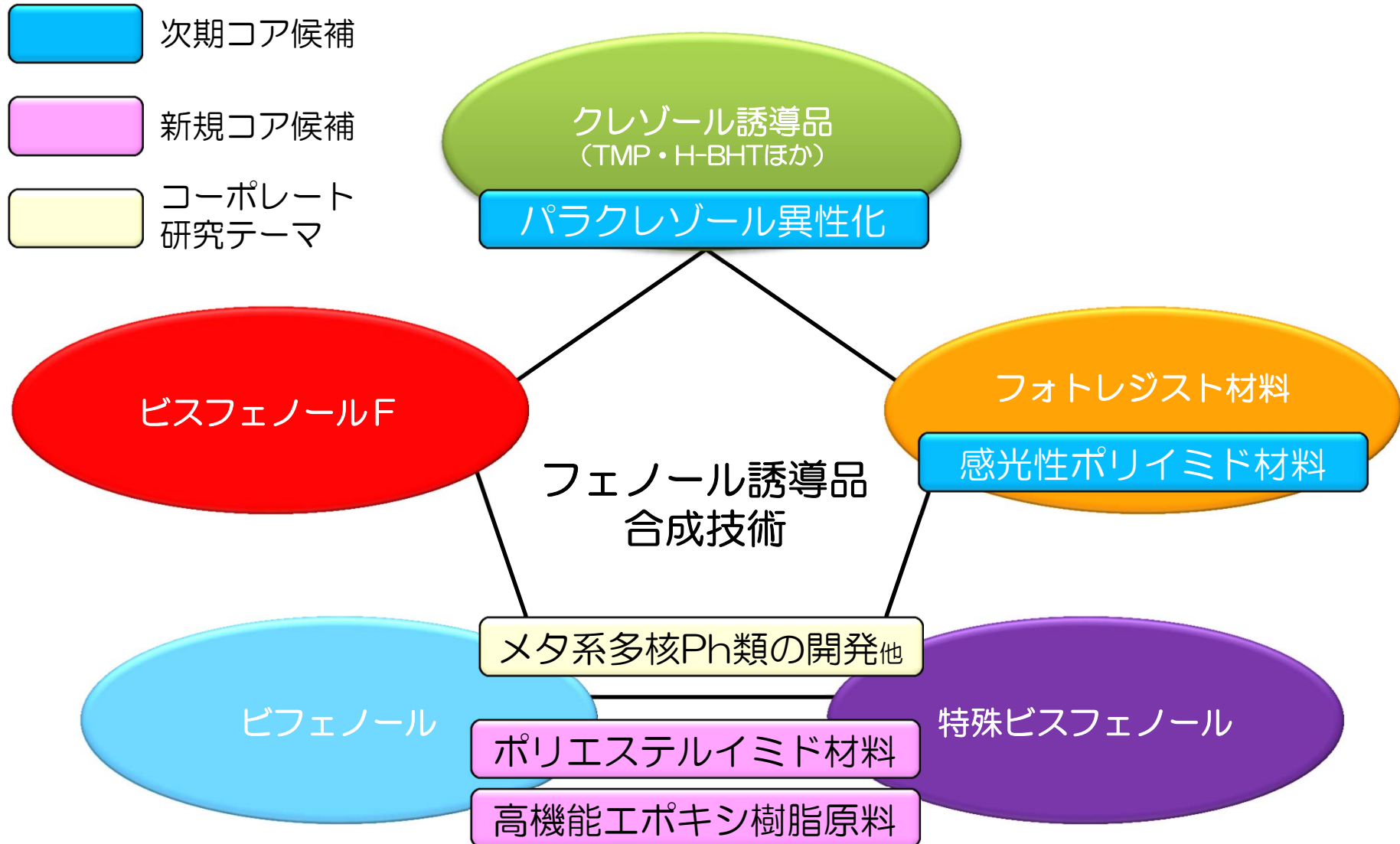
★新中期計画のポイント

1.新たな成長戦略の策定

(含・海外事業)

2.次期コア製品の創出

当社のポートフォリオの変革



コスト競争力の強化

固定費削減 – **BEP60PJ推進**

プラント統合、省人化

間接人員、省人化

変動費削減 – コア製品プロセス改善

クレゾール類

ビフェノール

ビスフェノールF

BEP60プロジェクトの概要

『和歌山工場の損益分岐点稼働率60%の達成』
(2013年度)

固定費削減

BEP*60推進委員会 (*ブレーク・イーブン・ポイント)
(社長直轄の推進委員会設置)

- ・プラント統合による省人化
- ・間接部門省人化

現 状 65% → 60%へ

<お問合せ先>

本州化学工業株式会社

経 理 部 和智達也

TEL : 03-3272-1482

FAX : 03-3272-1480

e-mail : ir@honshuchemical.co.jp

URL : <http://www.honshuchemical.co.jp/>

本資料における将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用下さい。